

# 風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

主は常にあなたを導き、焼けつく地であなたの渴きをいやし骨に力を与えてくださる。あなたは潤された園、水の涸れない泉となる。

イザヤ書58：11

実に、わたしたちの神は、焼き尽くす火です。

ヘブル書12：29

群衆はこそって、イエスがなされた数々のすばらしい行いを見て喜んだ。

ルカによる福音書13：17

## 【説教要旨】

参議院選挙の投票日の20日、石破総理大臣は、午前中、東京都内の富士見町教会を訪れ、礼拝に参加するなどして過ごした報道がありました。キリスト者にとって、日曜日は主日と言って礼拝に出席する日であり、これはユダヤ教の安息日を起源とします。安息日は神が天地創造を終えた日として、主日は、イエス・キリストが復活した日として記念して、神と共に人は休み、神に向かう日であります。

本日の第一日課は、イザヤ書56章から66章までを書いた第三イザヤです。バビロン捕囚を解かれ、徐々にイスラエルに帰還しはじめましたが、帰還する人数は少なく、帰還者は貧しく、現実は厳しく、どうかか生きていくという状況にありました。第三イザヤは苦しんでいる民を前にして、神の救いを語るのです。救いは、安息日を守ることによって明らかにされていくと強調される。安息日を厳守することは、イエス様の時代まで、そして今日まで続いています。

安息日をめぐってイエス様とユダヤ指導者の間で論争があったことはマルコ福音には特に詳しく記されています。

安息日を守るということはどういうことなのでしょうか。

主は常にあなたを導き、焼けつく地であなたの渴きをいやし、骨に力を与えてくださる。あなたは潤された園、水の涸れない泉となる。

どうにか生きていた私が、安息日を守ることによって、み言葉を通して、神の導きと救いを与えられるということです。

「主が次のようにいわれた天地創造の最後を指し示しています。『神はお造りになったすべてのものをごらんになった。見よ、それはきわめてよかった』(創世記1:31)。こうして安息日は始まりました。その日はご自分の造られたすべてのものに対する、神の喜びの日です。思い巡らし、祝福する日です。

では、このおきてでいう休息とは何でしょうか。それは思い巡らす機会であり、逃避ではなく讚美の時です。現実を見つめ、生きるとはなんとすばらしいことかと、感嘆するのです。現実逃避としての休息に対して、おきては休息を現実の祝福と受け止めています。」と教皇フランシスコは安息日を説明し、主日に次のように説明します。「わたしたちキリスト者にとって、主の日、日曜日の中心は『感謝』を意味する、感謝のミサです。『主よ、感謝します。いのちを、あなたのいつくしみを、あなたがくださったすべての恵みを』と神に伝える日です。主日は、それ以外の日のことを忘れ去る日ではなく、それらの日々を思い起こし、感謝し、人生を肯定する日です。気晴らしの機会が多くとも、人生を肯定できずにいる人がいかに多いことでしょう。すばらしきかな人生。たとえ楽ではなく、つらい日があろうとも、すばらしきかな人生—そういつて肯定する日が主日です。」(十戒・主の祈り—教皇講話集)

神の導きと救い—恵みを与えられるのが安息日—主日です。

群衆はこそって、イエスがなされた数々のすばらしい行いを見て喜んだ。ルカによる福音書13:17という日となるのです。

東芝の元社長で、半導体事業を育成した佐波正一さんなどは忙しい会社勤めをしていました、また、よっぽどでない限り、主日の礼拝を休むことがなかったと聞いています。それは、主日の礼拝を休んではならないという律法に従おうとしたのではなく、主日の礼拝を恵みの時、祝福の時としてどうしても「群衆はこそって、イエスがなされた数々のすばらしい行いを見て喜んだ。」というこの群衆と共にイエス

さまと共にいて、イエスさまから力をいただいていたからではないでしょうか。

神に救いを求めつつも、罪を犯している自分を悔いつつ、どうにかここまで、生きてきた自分がイエス・キリストの焼き尽くす日によって聖化され、自分をほめることが出来るものとして肯定されている自分を取り戻す喜び、神の私たちに幸せを願いに与りたかったのです。

フランシスコ教皇は安息日、主日をさらに次のように語りかけます。「安らぎは選り取るものです。押しつけられたり、偶然手に入るものではありません。……事実、真の安らぎとは、自分人生を変えることではなく、その人生をあるがままに受け入れ、その価値を認めることなのです。……どんなときに、人生はすばらしいものとなるでしょう。それは、それがどんなものであったとしても自分の人生についてじっくり考え始めたときです。疑いと言うたまものが道を拓く時です。すべてが恵となる道を――。」と語り、その聖なる厳かなときが安息日、主日であり、神の導きに心を拓く時で、人生はすばらしいものとなりますと語りかけます。

第三イザヤの時代、肯定出来ない民族の貧困、苦しみ、国を再建するには厳しい現実がありました。しかし、幸いを語ります。

13 安息日に歩き回ることをやめ、わたしの聖なる日にしたい事をするのをやめ、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日と呼び、これを尊び、旅をするのをやめたいことをし続けず、取り引きを慎むなら、14 そのとき、あなたは主を喜びとする。

喜びの安息日、神に心開き、幸いを得よと。これこそ真の休息と。今日の激動する時代であるからこそ、安息日は、主日は喜びの日となります。共にこれからも喜びの日の恵みをいただいでいきましょう。

「三本の苗木 キリスト者の家に生まれて」(佐波正一、佐波薫、中村妙子  
みすず書房)

## 牧師室の小窓からのぞいてみると



期待はしていなかったが、米国の仲裁のウクライナ紛争停戦が成立せず、ますます、ロシアの侵略は止まらない。この無責任な政治指導者は、どこに着地しようとしているのだろうか。

イザヤが「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると。主は言われる」と伝えたように、神の道を探ることに疲れてはいけない。「喉をからして叫べ、黙すな」、これが今の教会の歩むべき道だと思う。イザヤ書を、預言書を読む時代が今であると強く感じている。

## 園長・瞑想？迷走記



るうてる幼稚園・保育園連合会の今回の夏の研修会は爽やかな風の吹く研修会であった。

柴田愛子先生、久保山茂樹先生は、それぞれの現場をイメージしながら話を聞いて欲しいと言われた。聖書の研究では、これを生活座(Sitz im Leben ジッチンレベン)という。聖書に出ている人々がどういう所に住み、そこからどういうことが読み取れるかということである。

幼稚園、保育園が置かれている生活の場所は違う。違いを違いととられ、「私の保育」は何か。どう子どもを育てるのでなく、どう育とうとしているのかを感じる感性が大切だと言われる。それは頭でなく、自分の五感だと私は思う。

久保山先生は、講演の前にそれぞれの現場をイメージさせるために【しつも】「気になる子を一人、思い浮かべてください」。【しつも】「その子は(〇〇ちゃん)先生にとって・何かをなす必要がある子どもですか。・そのまま受け入れたい子どもですか？」というしつもんから始まる。そして、こう答えるのです。「出来ないことを出来るようにするのではなく、今、出来ていることを豊かにしていく、良さを、得意を心でしっかり受けとめていく」。現場を想像しながら聞くと反省される出来事が目に浮かんでくる。そして、これからはこうしようと励まされ示される。

## 毎日の糧



聖書：主は慈しみと憐れみの冠を授け、長らえる限り良いものに満ち足らせ、驚のような若さを新たにしてください。主はすべて虐げられている人のために、恵みのみ業と裁きを行われる。

主はご自分の道をモーセに、み業をイスラエルの子らに示された。

主は憐れみ深く、恵みに富み、**忍耐強く、慈しみは大きい。**

詩編103：4-8



### ルターの言葉から

愛は、愛の心をもっている人を愛する人の中に溶け込ませ、希望は、これをいだいている人を、望んでいる事柄の中へなげ込みます。  
『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

### 忍耐強く、慈しみは大きい。

私たちの神は、どこに目を注がれているかです。「主はすべて虐げられている人」に目を注がれています。強者ではないのです。私たちは今、むき出しの力が世界を覆う時代で、力ある者が幸いだという時代です。しかし、私たちの時代に逆行するように神の目はここにいないのです。「主はすべて虐げられている人のために、恵みのみ業と裁きを行われる。」と。

しかし、神はすべての人が救われることを望まれています。裁きはやってきます。しかし、主は憐れみ深く、恵みに富み、忍耐強く、慈しみは大きい方です。みな、裁きの時まで気づき、力によるのではなく、弱者に慈しみ深くあるように悔い改めることを忍耐して待たれています。「忍耐強く、慈しみは大きい」方です。しかし、現実には暴力がむき出しになり、現実に潰されそうになりますが、私たちも忍耐強く、諦めず、粘り強く、神の慈しみを伝えていきたいのです。すべての人が憐れみ深く、恵みに富み、慈しみ大きい人なり神の前に立っているからです。たとえ、明日が終わりであっても神の慈しみを植える。

祈り：主よ、力がむき出しになり、暴力が支配する世界にあって、忍耐してあなたの慈しみを伝える者としてください。

## 甘木通信

湯沢英彦広島県知事の挨拶は銘文であり、勇気つけられ、こういう政治家がいることに希望をもてた。ぜひ、一度、全文を読んでいただきたい。



被爆 80 年目の 8 月 6 日を迎えるにあたり、原爆犠牲者の御霊に、広島県民を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。そして、今なお苦しみの絶えない被爆者や御遺族の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

草木も生えぬと言われた 75 年からはや 5 年、被爆から 3 代目の駅の開業など広島は大きく変わり、・・・・平和と繁栄を謳歌しています。しかし同時に、法と外交を基軸とする国際秩序は様変わりし、剣き出しの暴力が支配する世界へと変わりつつあり、私達（たち）は今、この繁栄が如何に脆弱なものであるかを痛感しています。このような世の中だからこそ、核抑止が益々（ますます）重要だと声高に叫ぶ人達があります。

しかし本当にそうなのでしょうか。・・・・なぜなら、抑止とは、あくまで頭の中で構成された概念又（また）は心理、つまりフィクションであり、万有引力の法則のような普遍の物理的真理ではないからです。自信過剰な指導者の出現、突出したエゴ、高揚した民衆の圧力。あるいは誤解や錯誤により抑止は破られてきました。我が国も、力の均衡では圧倒的に不利と知りながらも、自ら太平洋戦争の端緒を切ったように、人間は必ずしも抑止論、特に核抑止論が前提とする合理的判断が常に働くとは限らないことを、身を以て示しています。・核兵器廃絶は決して遠くに見上げる北極星ではありません。被爆で崩壊した瓦礫（がれき）に挟まれ身動きの取れなくなった被爆者が、暗闇の中、一筋の光に向かって一歩ずつ這（は）い進み、最後は抜け出して生を掴（つか）んだように、実現しなければ死も意味し得る、現実的・具体的目標です。諦めるな。押し続ける。進み続ける。光が見えるだろう。そこに向かって這っていけ。這い出せず、あるいは苦痛の中で命を奪われた数多くの原爆犠牲者の無念を晴らすためにも、我々も決して諦めず、粘り強く、核兵器廃絶という光に向けて這い進み、人類、地球の生と安全を勝ち取ろうではありませんか。広島県として、核兵器廃絶への歩みを決して止めることのないことを誓い申し上げて、平和へのメッセージといたします。

**（甘木日記）**土）午後から体調も普通。明日のお父さん会のために肉の仕込み、ドレッシングを幼稚園に届ける。日）礼拝、お父さん会に出席するが夜は高熱。月）幼稚園で瓦当番。火）元気な子ども声が響く。水）松崎保育園の理事会。木）松崎保育園の礼拝が出来ず大学病院。日善幼稚園は夏季保育。金）日善幼稚園、2日目の夏季保育。

**おまけ・牧師のぐち**（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。  
ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）午前中も体調は最悪、そんなときに zoom での理事会。Zoom がなければ処理は出来ていない。午後から体調が回復し、昨日つくったシュラスコ用の肉とモーリヨ（肉に着ける野菜ソース）を届ける。夜、熱もでることなく静かな時を過ごす。明日は教会へ行けそうである。日）6時39分、久留米発の電車。二車両に一桁の人しか乗車していない。のんびり車窓の緑に育った稲を見ながらうとうととしていたら、気づくと甘



木。礼拝の準備。平和主日として平和を作り出す努力をしていく思いを強くした。路線に東洋一と言われた大刀洗陸軍飛行場があった。町は軍都なり、また、少年飛行兵の養成所



（西鉄甘木線）もあり、ここから多くの特攻兵を送った。甘木鉄道甘木線も、大刀洗飛行場への輸送のために作られた。平和なのどかな線も実はそんな歴史があった。町が空襲で灰燼と化す。礼拝が（甘木鉄道甘木線）

終わり、久留米まで送っていただきお父さん会のバーベキュー会に出席。私が作ったブラジル風岩塩で味付けられた肉がお父さんに上手く焼かれると甘い。全てが終わり帰宅。今日も夜は高熱。月）園の近くの病院に行く。「検査をしてどこも悪いところがないなら、出来るだけ薬を飲まないで体を冷やしてください。朝から夕刻まで平熱だが夜、高熱は体温調整が出来ていないとも言われる。仕事を2分1にして、とにかく休んで」。夜に食事を作る気力が起きるが、高熱。我慢して冷やすが2時にコロナール錠を飲む。火）5時には、汗だく



だくに。起きて着替え、洗濯、シャワー。36.7度。朝食も作る。体とは不思議なものだ。まさか老人に多い、体温調整を自分が出来なくなっているとは、老いるとはこういうことであろうか。調子悪く、早めに園を離れ病院に。在園生の保護者のI病院で丁寧にみていただく。相変わらず夕刻になると熱が出てくる。水）松崎保育園の理事会も zoom で出席。午後から再度、I病院に。あらゆる面から治療にあたってください。

木）松崎保育園の礼拝は出来ずに大学病院に。I病院の治療方針が良いと確認。半日を使う。金）体調が良いので、早朝から園だより、教会の事務作業を行う。日善幼稚園の夏季保育に顔を出す。